

短期予報解説資料 2025年7月5日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5760～5820mで-6℃以下の寒気を伴うトラフが千島近海から日本海にあって東進、これに対応する雲域が広がり、東北北部では1時間約30mmの激しい雨を解析し、発雷を検知。
- ② 四国沖の南の高気圧が、ほとんど停滞。高気圧の縁辺を回る暖湿流と300hPaで-30℃以下の寒気を伴う寒冷渦の影響で、南西諸島付近では、1時間30mm前後の激しい雨を解析し、発雷を多数検知。また、500hPa 5880m以上の上空の高気圧が大陸から九州を覆う。

- ③ 台風第3号は日本の東を北北東進。南シナ海の熱帯低気圧は5日03時に台風第4号に発達し、南シナ海をゆっくり西進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

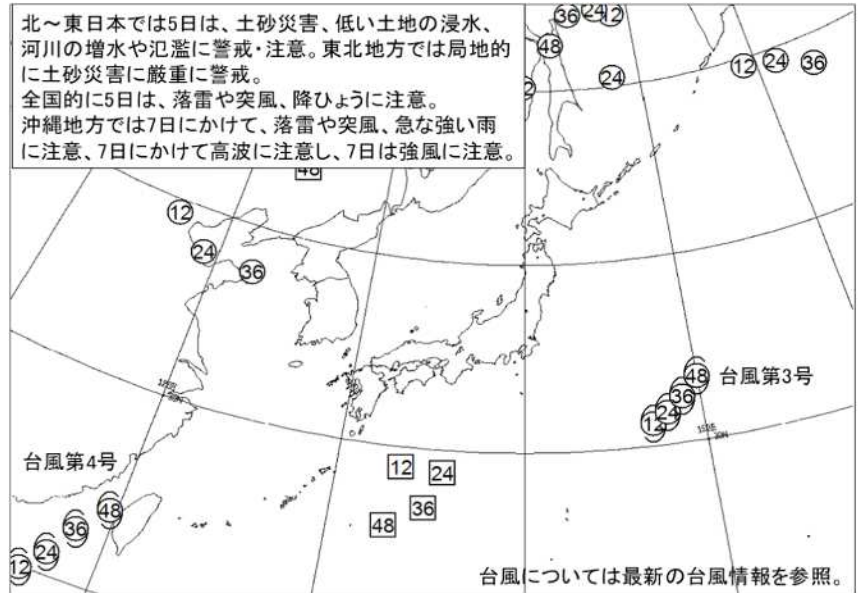
- ① 1項①のトラフが300hPaで-30℃以下の寒気を伴い、5日は北～東日本を通過し日本の東へ進む。1項②の高気圧縁辺を回る暖湿気や地上の昇温、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨の降る所がある。また、これまでの大雨の影響で地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高くなるおそれがある。北～東日本では5日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒・注意。東北地方では局地的に土砂災害に厳重に警戒。また、全国的に5日は、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ② 1項②の高気圧に緩やかに覆われ、晴れて気温が上昇し、猛暑日となる所がある。東～西日本では7日にかけて、熱中症など健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。また、高気圧の影響で大気安定傾向となるが、標高の高い所や内陸の地形性の低気圧の影響を受ける地域を中心に、地上の昇温の影響で大気の状態が不安定となる可能性がある。東日本では6日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨となる可能性に留意。東～西日本では7日も、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨の可能性に留意。
- ③ 南西諸島では高気圧周辺の下層暖湿気の流れや上空寒気の影響で大気不安定な状態が続く。沖縄地方では7日にかけて、落雷や突風、急な強い雨に注意。台風第4号の北上に伴い、下層暖湿気が増加し予想よりも降水域が広がる可能性があるため留意。また、台風第4号の影響で、先島諸島では強い風が吹き、波が高くなり、しける所がある。沖縄地方では7日にかけて高波に注意し、7日は強風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。
- ③ 高潮(明日まで)：東・西日本の日本海側では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図